

2023年度

科目名称	運動療法学実習
授業コード	BG323
英語名称	
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	芹田 透 (医療科学部), 塚田 絵里子 (医療科学部), 安田 耕平 (医療科学部), 廣瀬 昇 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	対象者の機能障害を改善するには運動療法は主要な手段となる。適切な運動療法を実施するためには、正しい解剖学・運動学の知識に基づいた技術が必要となる。 本授業では、臨床の現場で長年理学療法士として従事した教員が、その経験を活かして基本的な運動療法技術を教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指すうえで必要な基本的運動療法技術を、広範囲な分野において豊富な臨床経験を有する教員が教授する。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる、「理学療法士国家資格に準拠した医学的知識及び理学療法を十分に理解し、理学療法士としての基本的な臨床技能が実践できる」知識・技術レベルに到達することを旨とし、以下のよう な到達目標を設定する。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 基本的な知識・技術を習得することにより、安全で効果的な運動療法を実施できるようになること。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 技術者としての理学療法として、専門的な技術を身につけることができる。
計画・内容	1. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 上肢帯、上肢 2. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 上肢帯、上肢 3. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 下肢 4. 関節可動域運動・ストレッチング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 下肢 5. 筋力増強トレーニング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 上下肢・体幹の筋力トレーニングの技法を学ぶ (自重によるトレーニング、器具を用いたトレーニング) 6. 筋力増強トレーニング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 上下肢・体幹の筋力トレーニングの技法を学ぶ (自重によるトレーニング、器具を用いたトレーニング) 7. バランストレーニング 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 バランス機能障害に対するトレーニング技法を学ぶ 8. 基本動作練習 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 寝返り・起き上がり・立ち座り練習

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>10. 実技試験 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 （関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング）</p> <p>11. 実技試験 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 （バランストレーニング・基本動作）</p> <p>12. 実技試験フィードバック 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 （関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング） （バランストレーニング・基本動作）</p> <p>13. 実技最終確認試験 担当：芹田、廣瀬、塚田、安田 （関節可動域運動・ストレッチング、筋力増強トレーニング） （バランストレーニング・基本動作）</p> <p>* 全教員が、脳血管障害分野、運動器障害分野、内部障害分野などで15年以上の実務経験を有する</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>実技を中心に実施する。基本的な解剖学、運動学の知識は必須となるため、授業前に該当範囲を復習すること。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>臨床における実践を想定し、治療理論に基づいた運動療法を実技練習から習得する。</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>授業前に体表解剖や触診のポイントについて、教科書を用いて予習をする。また、授業後には繰り返し技術練習をおこなうこと（各回1時間～2時間）。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】 市橋則明 編「運動療法学 障害別アプローチの理論と実践 第2版」（文光堂）</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>実技試験成績（100%）</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>授業内で学生の理解が困難な内容があれば、次回以降の授業で資料配付や追加説明によりフィードバックを行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>campus square 参照</p>
<p>留意事項</p>	<p>本授業を受講するにあたり、運動学や機能解剖学の知識を再確認することが望ましい。</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>zoomによるオンライン授業を実施する google フォームを使用して理解度確認を実施（50%）。出席状況（50%）。</p>